SX1012
1534

SX1012
1535

SX1012
1536

SX1012
1537

SX1012
1539

SX1012
1540

SX1012
1541

SX1012
1542

SX1012
1543

SX1012
1544

SX1012
1545

包含層
1606

包含層
1607

包含層
1610

包含層
1613

包含層
1626

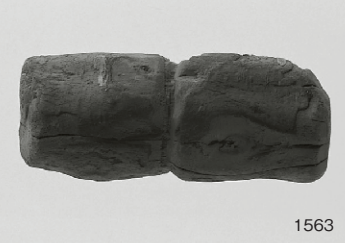
図版 97　　寺海土遺跡　出土木製品

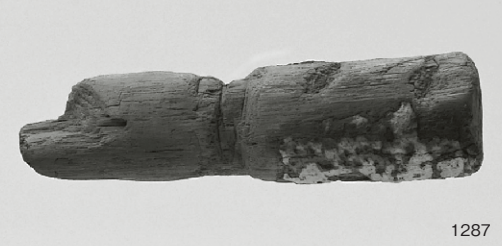
1231

1232

1241

1564


1563


1287

1237

1565

901

1285

1286

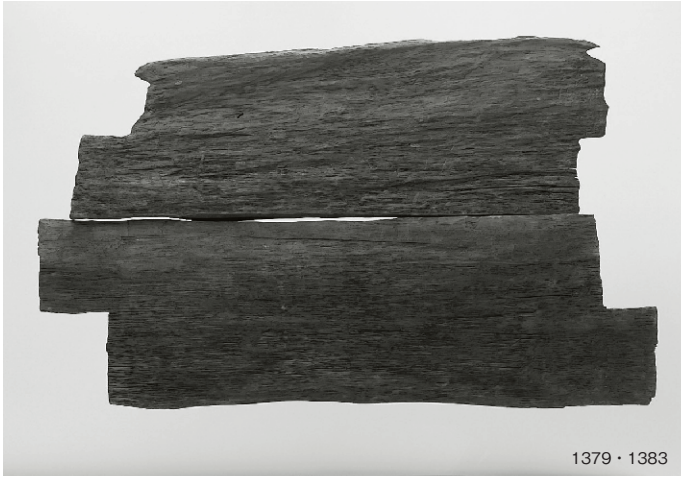
1240

1239

951

901　SR2003 出土　　951　SD2001 出土　　1231・1232・1237・1239・1240・1241　SD2004 出土
1285・1286・1287　SD2005 出土　　1564・1563・1565　SF1012 出土

1380・1384


1379・1383

1378・1382

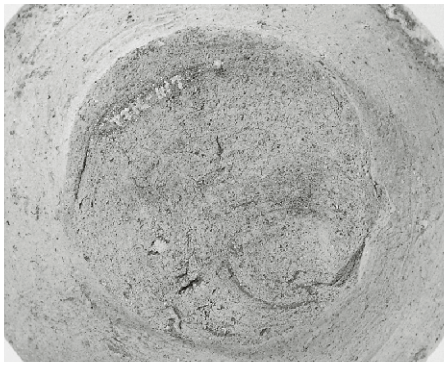
1381・1385

1377

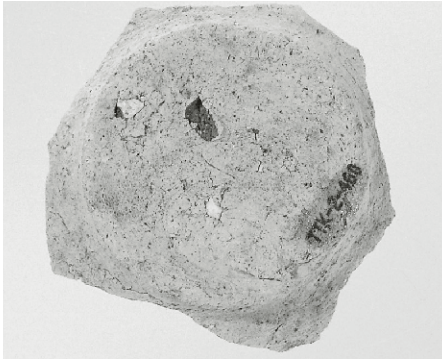
1377　内面の様子

1378 ～ 1385　井戸枠
1377　井筒

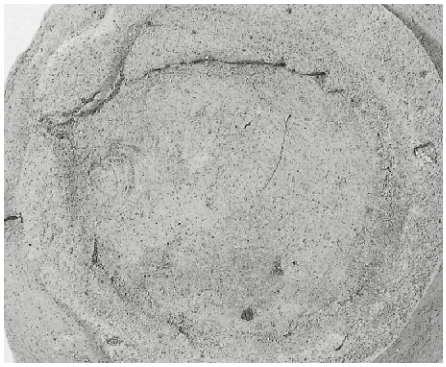
図版 99　墨書土器（1）


690　記号

811　記号


919　記号

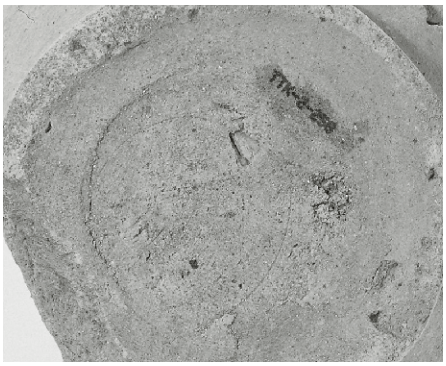
1215「□」


1216　記号

1217「粟」

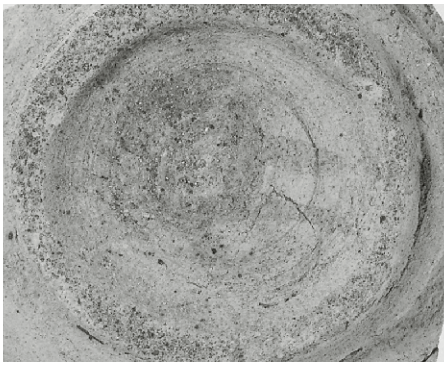
1218「□（得か）善」

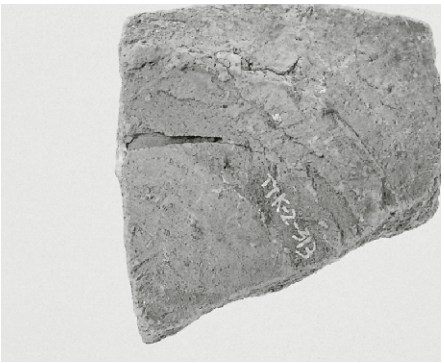
1219「□」


1220　記号

1221「□□」

1222「○」


1223「上」＋記号


1224　不明

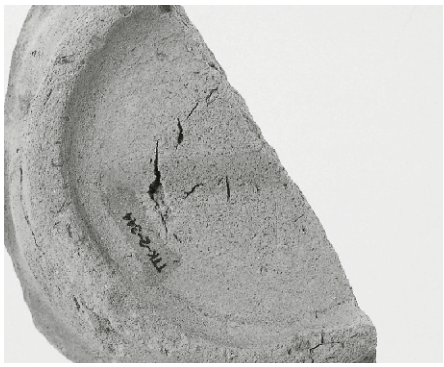
1225「十」

1226「一」

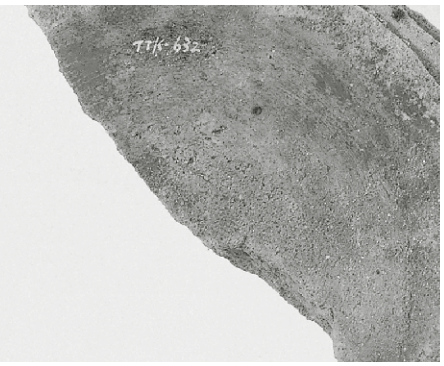
1250 「一」

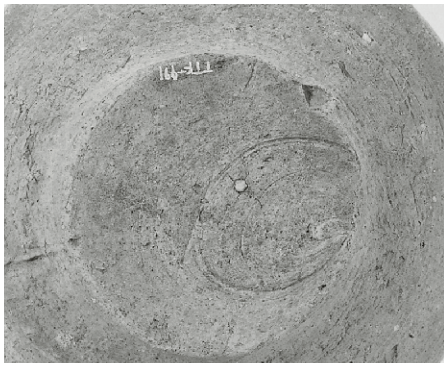
1271 「一」＋「・」

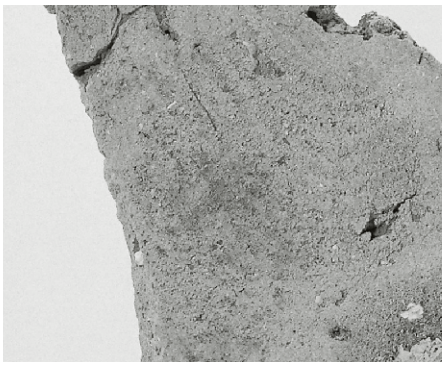
1311 「大」

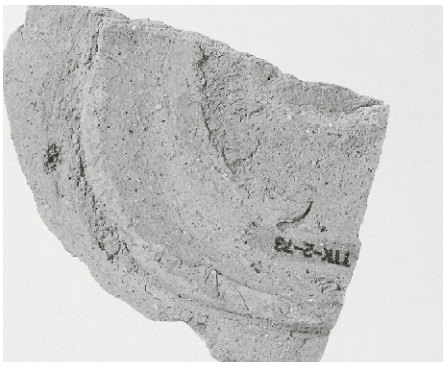

1312 「一」

1349 「山」

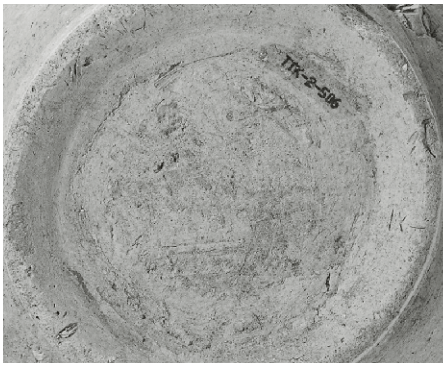

1370 不明

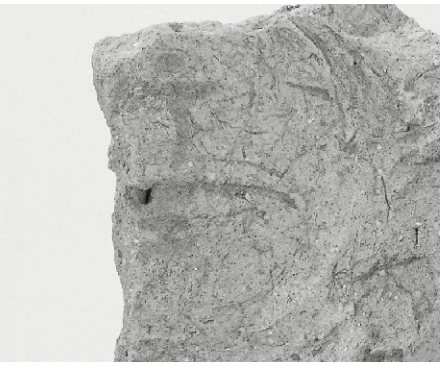

1408 記号


1453 「十」

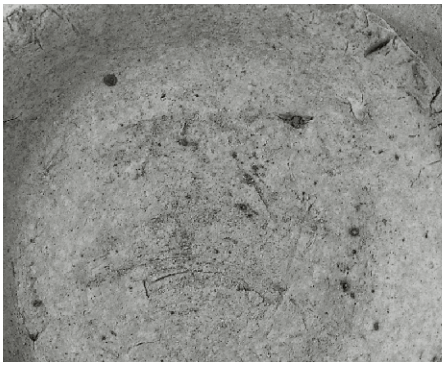

1503 不明

1538 記号


1632 不明

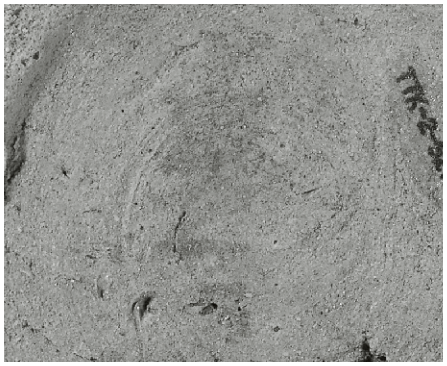

1633 「行□」

1634 「上」＋記号

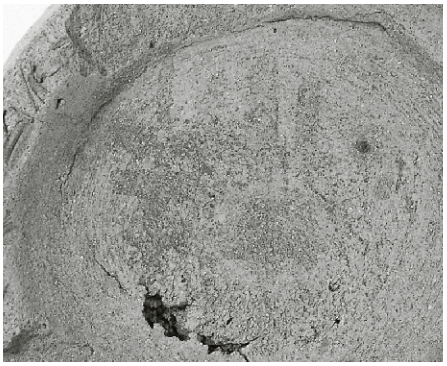

1635 「又」か

1636 不明

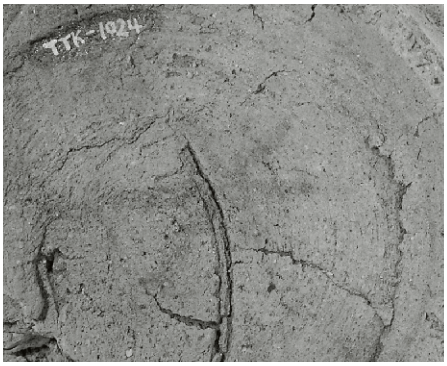
図版 101　　墨書土器（3）



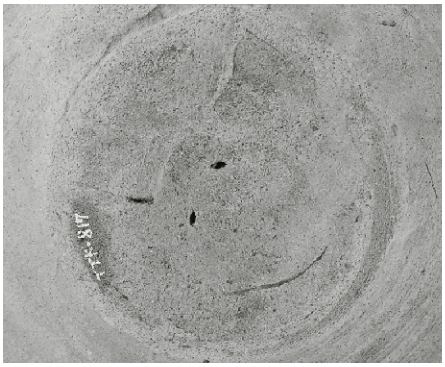
1637 「奉」



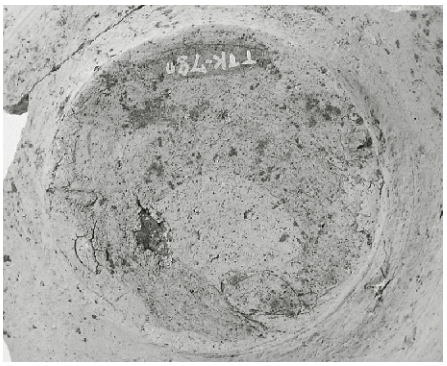
1638 早九字



1639 記号



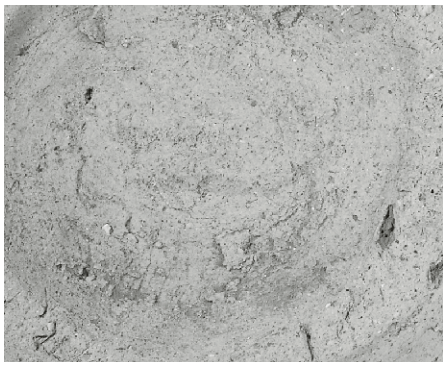
1640 花押に「○」



1641「子」または記号

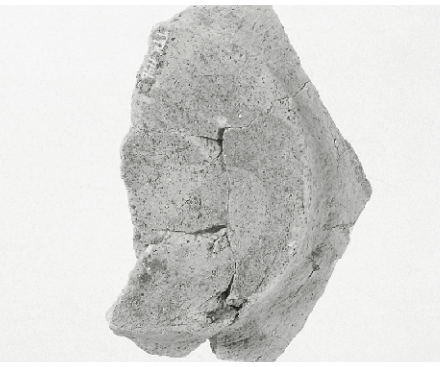
1642 「一」

1643 「十」か



1644 「一」か

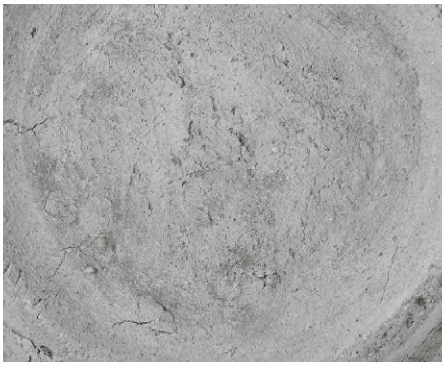
1645 「上」



1646 「子」または記号

1647 「十」か

1648 「上」



666 記号

SD2005 出土「□□」

1313 ヘラ書き記号

丸瓦

有段式の丸瓦。
胎土は緻密で、色調は橙白色。
離れ砂は付着せず。

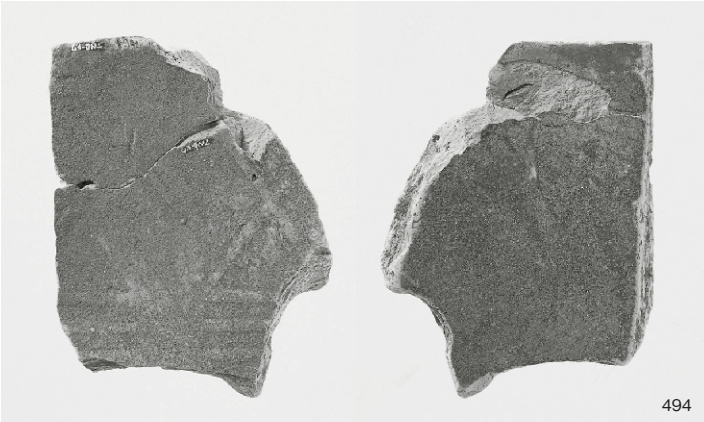
無段式の丸瓦。
中屋遺跡丸瓦Ⅱ類に相当。
凹面に吊り紐痕がみられる。
離れ砂が多く付着する。

498　凹面の吊り紐痕。

平瓦

凸面は縄叩き＋ナデ調整。凹面には側板痕が残る。

凸面は縄叩き＋ナデ調整。凹面に側板痕はみられない。



叩き目は縦長斜格子＋横線。中屋遺跡平瓦ⅡＢ類と同一。

1227　叩き目の花菱文。

491　凹面にみられる叩き目の転写。

報告書抄録

ふりがな	なかやいせき・てらかいといせき
書名	中通遺跡・寺海土遺跡
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　浜松市－３
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第 15 集
編著者名	武田寛生（編）　足立順司　鈴木三男　小川とみ 株式会社加速器分析研究所　パリノ・サーヴェイ株式会社　株式会社パレオ・ラボ
編集機関	静岡県埋蔵文化財センター
所在地	〒 422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田 23－20　　TEL 054－262－4261
発行年月日	2012 年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
なかどおりいせき 中通遺跡	しずおかけんはままつし 静岡県浜松市 はまきたくねがた 浜北区根堅			世界測地系 34°50′21″ 旧日本測地系 34°50′09″	137°47′10″ 137°47′21″	20030109 ～ 20060227	12,300	記録保存調査
てらかいといせき 中通遺跡	しずおかけんはままつし 静岡県浜松市 はまきたくねがた 浜北区根堅			世界測地系 34°50′21″ 旧日本測地系 34°50′09″	137°47′18″ 137°47′29″	20040908 ～ 20051012	5,800	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中通遺跡	その他	縄文時代早期	炉穴 218、集石 36	縄文土器、石器	
	集落	鎌倉～江戸時代	掘立柱建物 35、井戸 3、河川 1、溝、土坑	中世陶器、瓦、瓦塔、陶磁器、銭貨、キセル、柱根、桶	
寺海土遺跡	集落 交通	鎌倉時代	道路 2、掘立柱建物 8、井戸 3、河川 1、祭祀関連遺構 3、溝、土坑	山茶碗、土師質土器、漆椀、箸、下駄、曲物、種実	

要　約

中通遺跡は、縄文時代と古代から近世にかけての複合遺跡である。なかでも特に注目されるのは、縄文時代の遺構である。縄文早期の遺構としては、早期の炉穴が 218 基、集石が 36 基発見されている。１遺跡において発見された炉穴としては、東海地域で最多の数となる。炉穴と集石は、調査区の北西部の約 2,000 ㎡の範囲に密集した状態で築かれており、繰り返し改築された様子が認められる。遺物の出土は少ないが、撚糸文や押型文土器などが出土している。

寺海土遺跡は、鎌倉時代の遺跡である。遺構としては、河川跡や建物跡、祭祀関連遺構、道路遺構などが検出されている。河川が 13 世紀前葉までにそのほとんどが埋没し、建物や道路は河川の埋没後に築かれている。道路はやや位置を変えて２時期（13 世紀前葉～中葉・13 世紀中葉～ 14 世紀）確認される。長さ 64m にわたって調査区を東西に横断しており、古い時期の道路幅は約７ｍで両側には側溝が設けられている。遺物としては、山茶碗類に加え、土師質土器や木製品などが多数出土している。東側に隣接する中屋遺跡との関係が注目される。